

ごんぎつね(際立たせて読む)

文章の中の、ある一部分のことばの意味内容を強調するため、そのことばを目立つ・際立たせる読み方にします。

強調のしかたには、次のような方法があります。

- | | |
|---------|---------|
| 強調のしかた1 | 高く、強く読む |
| 強調のしかた2 | 低く、弱く読む |
| 強調のしかた3 | のばして読む |
| 強調のしかた4 | 速く読む |
| 強調のしかた5 | 間をあけて読む |

次の文章の太字のことばを() のような強調のしかたで読むとします。そのような方法で、そのことばの意味を際立たせる読み方、印象が深まる読み方にして声に出して試みよう。

(「な、か、や、ま」と間をあけて読む)

むかし、わたしたちの村の近くの、中山というところに、

(「ちーさな」とのぼす)(な、か、や、ま、さ、ま)(お、と、の、さ、ま)と間をあける)

小さなお城があって、中山さまというおとのさまが、おられたそうです。

(「ご、ん、ぎ、つ、ね」と間をあける)

その中山から、すこしはなれた山の中に、「ごんぎつね」という

きつねがいました。ごんは、一人ぼっちのごんぎつねで、しだの

いっばいしげった森の中にあなをほって住んでいました。そして、

(「…でも…でも」高く強く読む)(「ばかり」を高く強く読む)

夜でも昼でも、辺りの村へでてきて、いたずらばかりしました。

(「…たり、…たり、…たり」「三つの」たり」を高く強く読む。「たり」の下で間をあける)

畑へはいつてもほりちらしたり、なたねがらの、ほしてある

のに火をつけたり、百姓家のうら手につるしてあるとんがらしを

むしりとって、いったり、いろいろなことをしました。